

令和6年度

看護学研究科（博士前期課程）

問題・出題の意図・解答のポイント

令和5年8月26日

高知県立大学大学院

小論文

問 対象のプライバシーを尊重するとはどういうことかを説明したうえで、あなたの実践領域における課題をあげ、その課題を解決するための方略について、あなたの考えを述べてください。

(100点)

<出題の意図>

看護実践において、対象のプライバシーを尊重することは重要である。この設問により、プライバシーを尊重することに関する専門的知識、看護に対する洞察力、論理性と抽象的思考力をみる。

<解答のポイント>

対象のプライバシーを尊重することについて、対象の私的な生活領域における自由を守る、対象の価値と人間としての尊厳を守る、個人の自律性を尊重する、などを説明していること。自身の実践領域における課題をあげ、その解決に向けた方略について、自らの考えを論理的に述べていること。

英語 実践リーダーコース

次の英文を読み、下記の質問に日本語で答えてください。

(50点)

出典: Edmondson, Amy C.: Introduction: The fearless organization: creating psychological safety in the workplace for learning, innovation, and growth, p. XV, John Wiley & Sons Inc., 2019
より抜粋

<出題の意図>

大学院博士前期課程において必要となる基礎的な英文読解力と、設問の内容を的確に把握し解答する力をみる。

問1 下線部を日本語に訳してください。

(20点)

<解答のポイント>

文章を正しく捉えて、日本語に訳していること。

問2 職場における心理的安全性とはどのようなものでしょうか。あなたの考えを述べてください。

(30点)

<解答のポイント>

設問に対して、自らの考えを述べていること。

英語 高度実践看護師コース・研究コース

次の英文を読み、下記の質問に日本語で答えてください。

(100点)

出典: Esterhuizen, Philip: 1. What is meant by reflection and reflective practice?: Reflective Practice in Nursing 4th Edition, SAGE, p.19, 2019より抜粋

<出題の意図>

大学院博士前期課程において必要となる基礎的な英文読解力と、設問の内容を的確に把握し解答する力をみる。

問1 筆者は、リフレクションについてどのように述べていますか。要約してください。

(50点)

<解答のポイント>

以下の内容を含んでいること。

- ・新しい概念を取り入れ、その使い方を理解するためには内省が必要である
- ・看護師として知識を維持することが求められるのであれば、その知識と自分の行動について内省することは看護師としての説明責任の一部であるなど

問2 看護師が専門職者としての説明責任を果たすために重要な知識を獲得する取り組みについて、英文の内容も参考にして、あなたの考えを述べてください。

(50点)

<解答のポイント>

提示された英文も参考にして、自らの考えを述べていること。

専門科目 がん看護学

問1 不眠のあるがん患者への看護援助について、以下の1)、2)に教えてください。

(100点)

- 1) がん患者の不眠を引き起こす要因について具体的に説明してください。
- 2) 1)でとりあげた要因のなかから2つを選び、不眠のあるがん患者への看護援助について、根拠とともに述べてください。

<出題の意図>

がん患者の30%~75%が不眠を有しており、QOLを低下させる不眠を緩和する援助は重要である。この設問により、がん患者の不眠に関する専門的知識、症状緩和に関する看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問1-1) がん患者の不眠を引き起こす要因について、身体的要因(痛みなどの身体症状)、薬理的要因(ステロイド、オピオイド、利尿薬)、精神的要因(せん妄、うつ病、適応障害)、心理的要因(ストレス、ライフイベント)、生理的要因(環境変化、物音、医療処置によるもの)などの点から具体的に説明していること。
- 問1-2) 不眠のあるがん患者への看護援助として、1)でとりあげた要因をふまえて、不眠のアセスメント、薬物的介入のマネジメント、安楽を提供する介入(環境調整、リラクゼーション)、教育的介入(刺激のコントロール方法、認知行動的対策、適切な運動)などを根拠とともに述べていること。

問2 がん患者のヘルスプロモーションについて、以下の1)、2)に教えてください。

(100点)

- 1) がん患者にとってのヘルスプロモーションの重要性について説明してください。
- 2) がん医療のプロセスに沿ったがん患者のヘルスプロモーションへの支援において有用と考える概念を1つとりあげて、その概念を用いてどのような支援を行うかについて、具体的に述べてください。

<出題の意図>

ヘルスプロモーションへの支援は、健康な人だけでなく、すべてのがん患者が対象となり、がん医療のプロセスに沿ってその人の健康を支援することは重要である。この設問により、がん患者のヘルスプロモーションについての専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問2-1) がん患者にとってのヘルスプロモーションの重要性（健康の意味の捉え直し、再発や転移の早期発見など）について、説明していること。
- 問2-2) 有用と考える概念（患者教育、対処能力など）を1つとりあげて、その概念を用いて、がん患者のヘルスプロモーションへの支援について、具体的に述べていること。

専門科目 慢性看護学

問1 慢性疾患をもつ成人のストレス・マネジメントの支援について、以下の問いに答えてください。

(100点)

- 1) 慢性疾患をもつ成人のストレス・マネジメントが身体状態に及ぼす影響について、有用な概念や理論を1つとりあげて説明してください。
- 2) 上記1)をふまえて、慢性疾患をもつ成人のストレス・マネジメントの支援方法について、その根拠とともに述べてください。

<出題の意図>

慢性疾患をもつ成人のストレス・マネジメントの支援は、慢性看護の重要な役割である。この設問により、慢性疾患をもつ成人のストレス・マネジメントの支援に関する専門的知識、分析力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

問1-1) 慢性疾患をもつ成人のストレス・マネジメントが身体状態に及ぼす影響について、汎適応症候群、セリエの生理的ストレス理論などをとりあげて説明していること。

問1-2) 上記1)をふまえて、慢性疾患をもつ成人のストレス・マネジメントの支援方法について、根拠とともに述べていること。

問2 次の事例を読んで、以下の問いに答えてください。

(100点)

Aさん(50歳、男性、独居)は、小規模の菓子パン製造会社に長年勤務しており、商品開発や営業を担当している。仕事柄、食品の試食や自動車での移動が多い。10年前の特定健康診断から度々、メタボリック症候群を指摘され、受診勧奨を受けてきた。平日の受診は職場の作業量に支障をきたすため、受診することなく放置していた。半年前から、勤務中にミスを頻発したり、強度の倦怠感で仕事に集中できなくなったりしていた。社長の指示で勤務中に近医を受診したところ、2型糖尿病と腎機能低下を指摘された。医師から内服だけでは透析導入も近いと言われ、内服治療のほか食事療法と運動療法の指導を受けた。その後、待合室でAさんは「仕事を辞めるまでは無理だよ。とにかく仕事しないと生活できないんだから。」と、うつろな表情である。

- 1) Aさんについて、アセスメントしてください。
- 2) 上記1)をふまえて、Aさんへの療養法の学習支援について、根拠とともに具体的に述べてください。

<出題の意図>

慢性疾患をもつ壮年期成人における療養法の学習支援は、慢性看護の重要な役割である。この設問を通して、療養法の学習支援に関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問2-1) Aさんについて、療養法と仕事を両立することに対する困難感や無力感を感じている、職場の調整や生活習慣の改善の課題解決に有効な経済的・人的なサポート資源が不足している、などをアセスメントしていること。
- 問2-2) Aさんへの療養法の学習支援として、学習の動機づけをするための積極的傾聴と共感、人生経験の言語化を促し個人の強みを強化する、無力感に関わる問題の認知と感情の言語化を促し解決したい課題を明確化する、などを根拠とともに具体的に述べていること。

専門科目 クリティカルケア看護学

問1 事例を読んで、以下の1)、2)に教えてください。

(100点)

Aさん(48歳、男性、会社員)は、妻(45歳)と高校3年生の息子の3人暮らしです。Aさんは、半年前から食後に心窩部痛を感じていました。今朝も胃部不快感があると話していました。いつも通り出勤しましたが、会議中に吐血し救急搬送されました。

到着時、開眼はしているものの視線が合わず、落ち着きなくソワソワしています。バイタルサインは、体温36.4℃、呼吸数24回/分、脈拍124回/分(整)、血圧92/70 mmHg(臥位)、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO₂)95%(ルームエア)、顔面は蒼白で、皮膚は湿潤しており、四肢冷感を認めます。眼瞼結膜は蒼白、眼球結膜の黄染はありません。腹部は膨満しており、腸蠕動音は弱く、心窩部に圧痛を認めますが、筋性防御はありません。診察中も吐血が数回あり、Aさんは「死ぬのかな」と力なくつぶやいています。

1) Aさんの状態をアセスメントしてください。

2) 1)をふまえて、Aさんへの看護援助について、具体的に述べてください。

<出題の意図>

ショックの徴候がある患者の状態を評価し、早期に対応することは、重症化を防ぐ上で重要な看護援助である。この設問により、ショックの徴候のある患者への看護援助に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力を問う。

<解答のポイント>

問1-1) Aさんのアセスメントとして、上部消化管出血により、循環動態が不安定であること、意識障害が認められること、循環血液量減少性ショックの徴候があること、死への恐怖があることなどについて述べていること。

問1-2) 上記1)をふまえて、Aさんへの看護援助について、全身状態のモニタリング、輸液管理、苦痛緩和、既往歴や内服歴の確認、不安や緊張の緩和などの視点から具体的に述べていること。

問2 集中治療を受けた患者の社会復帰に向けた看護援助について、以下の1)、2)に教えてください。

(100点)

- 1) 集中治療を受けた患者の社会復帰を困難にする心理社会的要因を2つとりあげ説明してください。
- 2) 1) をふまえて、患者の社会復帰に向けた看護援助について、根拠とともに述べてください。

<出題の意図>

集中治療を受けた患者の社会復帰を困難にする心理社会的要因を理解し、援助をすることは、患者の長期予後を改善する上で重要である。この設問により、集中治療を受けた患者の社会復帰に関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問2-1) 集中治療を受けた患者の社会復帰を困難にする心理社会的要因として、ストレス障害、活動意欲の低下、孤立感などから2つとりあげ、説明していること。
- 問2-2) 患者の社会復帰に向けた看護援助について、1) でとりあげた要因をふまえて、心身の苦痛緩和、患者のニーズに応じた情報提供、集中治療室退室後の支援体制の構築などについて、根拠とともに述べていること。

専門科目 小児看護学

問1 症状が再燃した子どもの看護について、以下の1)、2)に答えてください。
(130点)

- 1) 症状が再燃したために入院してきた子どもの体験について、理論や概念を1つとりあげて説明してください。
- 2) 子どもの発達段階を1つ設定し、1)をふまえて子どもの退院に向けて、あなたが重要であるとする看護実践を2つとりあげて、根拠とともに述べてください。

<出題の意図>

症状が再燃した子どもの体験を理解し看護を実践することは、小児看護の重要な課題である。この設問により、このような状況にある子どもへの看護に関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

問1-1) 症状が再燃したために入院してきた子どもの体験について、理論(自我発達理論、セルフケア理論など)や概念(不確かさ、自己概念の脅かしなど)を用いて説明していること。

問1-2) 1)をふまえて、設定した発達段階にある子どもの退院に向けて重要であるとする看護実践(子どもが症状の再燃による入院体験を振り返り意味づけができるようにすること、子どもが捉える症状を確認しながら退院後に症状の兆しを感じた時に対応できるようにすること、療養法を遂行する子どもの力を親が判断して補完できるようにすることなど)について2つとりあげて、根拠とともに述べていること。

問2 次の事例を読んで、あなたが重要であるとする子どもの家族への看護援助を1つとりあげて、根拠とともに述べてください。

(70点)

Aさん(1歳、女児)の家族は、父親、母親、姉(5歳)、兄(4歳)の5人家族です。Aさんは低出生体重児であり、生まれた時から治療のため入院しています。生後10ヵ月ころより経管栄養によって体重が増加し、けいれん発作も内服治療で落ち着き始め

ました。きょうだいの世話もあるなか母親が1時間程度、毎日面会に来ています。週末は父親と交代しています。退院に向けた準備として、母親は経管栄養の手技を医療者の見守りのもと実施できるようになりました。そこで、医療者は今のAさんの状態であればけいれん発作も落ち着いたため、QOLを考えて退院できると判断し、家族に退院して外来通院することを説明しました。しかし、母親は「経管栄養をしている間はAを家に連れて帰ることはできない。上の子2人の世話をしながらでは突然起こるかもしれないけいれん発作に気づけない。」と厳しい表情であり、父親は「母親の気持ちを尊重したい。」と話しています。

<出題の意図>

子どもの退院に伴って変化する家族生活への影響を理解し、家族を小児看護の対象として位置づけた看護を実践することは重要である。この設問により、このような状況にある家族への看護の専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

子どもの家族への看護援助（家族の病気体験をふまえて、家族がAさんの命を守る責任を引き受ける役割過重や負担感を緩和すること、Aさんのけいれん発作の予防や早期発見について教育的支援を行うことなど）について、根拠とともに述べていること。

専門科目 老人看護学

問1 老年期の発達課題について以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

- 1) 老年期の発達課題が高齢者の早期離床に及ぼす影響について、具体的な事例をあげて説明してください。
- 2) 老年期の発達課題に向き合っている高齢者への看護援助について、理論や概念を1つ使って具体的に説明してください。

<出題の意図>

老年期の発達課題を理解し援助することは、高齢者の看護援助として重要な課題である。この設問により、老年期の発達課題に関する看護の専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

問1-1) 老年期の発達課題が高齢者の早期離床に及ぼす影響（「人生の統合」において、これまで培ってきた「英知」が苦痛を乗り越える力となったり、突然の健康障害に伴う「絶望」によって早期離床の目標を見失ったりする、など）について、臨床事例をあげながら説明していること。

問1-2) 老年期の発達課題に対する看護援助について、ケアリング、ナラティブアプローチ、レジリエンスなどの理論や概念を1つ使って説明していること。

問2 事例を読んで以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

自宅で転倒して尻もちをつき、脊椎圧迫骨折の診断を受けた89歳女性。痛みが強く独居のため、コルセットを使用し1週間入院加療することとなりました。入院時には対応もしっかりしていましたが、夜間になって「部屋に子供が入ってくる」とナースコールがあり、2日目の夜には「家に帰る」「警察を呼んで」と声を荒げるようになりました。

- 1) この事例の状況についてアセスメントしてください。

2) 1) のアセスメントをふまえて、この事例について優先順位が高いと考える看護援助を2つとりあげて、根拠とともに具体的に説明してください。

<出題の意図>

転倒・骨折によって突然入院することになった高齢者の看護援助については、急な健康障害に対する視点の他、潜在する健康障害に対するアセスメントと援助が求められる。この設問から、転倒・骨折によって突然入院することになった高齢者の支援に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

問2-1) 事例の状況として、強い疼痛やコルセットの使用に伴う体動制限、急な環境変化などからせん妄症状を起していること、もともとレビー小体型認知症を発症していた可能性があることなどについてアセスメントしていること。

問2-2) 優先順位が高い看護援助として、ベッドからの転落防止、これ以上の混乱を防止する対応、幻視の有無の確認などから2つとりあげて、根拠とともに具体的に説明していること。

専門科目 精神看護学

問1 看護師の共感疲労について、以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

- 1) 看護師の共感疲労につながる状況を1つとりあげ、具体的に述べてください。
- 2) 1)をふまえ、共感疲労に陥った看護師への対応について、根拠とともに具体的に述べてください。

<出題の意図>

看護師の共感疲労を理解し、共感疲労に陥った看護師への対応を行うことは重要である。この設問を通して、共感疲労に関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問1-1) 共感疲労につながる状況として、患者や家族の傷つき体験について話を聞く、ケアによる症状の改善が見込めない患者とかかわる、患者の死を看取る、などについて1つとりあげ、具体的に述べていること。
- 問1-2) 1)をふまえ、感情の表出を促す、時空間的・心理的な境界をもつことを促す、リフレクションの機会をつくる、などの共感疲労に陥った看護師への対応について、根拠とともに具体的に述べていること。

問2 次の事例を読み、Aさんへの看護援助について、根拠とともに具体的に述べてください。

(100点)

Aさん(50代、女性)は夫と2人暮らしである。Aさんは第2子出産後にうつ病で1年ほど通院治療を受けたことがある。その後は再発することなく過ごしていたが、子どもの独立を機に15年間勤務した職場を退職して1年が過ぎたころから、めまいや嘔気、耳鳴り、倦怠感など身体の不調を自覚するようになった。そのため内科や耳鼻科を受診したが、異常は認められなかった。その後も症状は軽快せず家事も滞り、夫に「何もできなくなって迷惑ばかりかけてごめんなさい。」と日に何度も涙を流して繰り返すようになった。マンションのベランダから下を見下ろして「このままいなくなれば…」とつぶやくAさんを夫が説得して精神科を受診させ、Aさんはうつ病の診断で閉鎖病棟に

入院した。入院し数日が経過した現在、Aさんは受け持ち看護師に「役立つ人間はいないほうがいいと思うんです。」と話し、焦燥感や不眠、食欲低下もみられている。

<出題の意図>

入院初期の希死念慮があるうつ病患者に対して、安全を守り安心して療養生活を送る看護援助を行うことが重要である。この設問を通して、入院初期の希死念慮があるうつ病患者への看護援助に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

Aさんへの看護援助として、安全な環境を確保する、心身の苦痛を受けとめ支持的な態度でかかわる、セルフケア不足を援助する、などについて根拠とともに具体的に述べていること。

専門科目 家族看護学

問1 次の事例を読み、以下の1)、2)に教えてください。

(130点)

Aさん(80歳、男性)は、脳出血後、左半身麻痺があり、1か月前から回復期リハビリテーション病院に入院中である。会社員の長男とその妻と同居している。長男夫婦には子どもはいない。また、病院のすぐ近くに長女家族が住んでいる。入院後は、長男の妻が毎日13時過ぎに車で1時間ほどかけて着替えを持って面会に訪れている。ある日、疲れた様子の長男の妻を見かけ、看護師が話を聞いた。長男の妻は、Aさんが入院するまで実母の介護に1日おきに実家に通っていた、現在もできるだけ行くようにしているがちょっと疲れてきた、と話された。Aさんの長女に手伝ってもらってはどうか、と提案すると、「義姉は共働きで忙しそうだし、仕事もしていない私がお世話をするのがいいと思う。でも、お父さんの麻痺もどこまで回復するかわからないし、今後のことを考えると不安だらけで…。夫からは頼んだよと言われているので、そんなこと言えないし…。私が頑張らないといけないと思うのですが、どうしたらよいのか…。」と流涙された。

- 1) この家族の状況について、1つの概念または理論を用いて説明してください。
- 2) 1)をふまえて、この家族に対してどのような看護援助を行うか、根拠とともに具体的に述べてください。

<出題の意図>

家族員の健康問題は、家族全体に様々な影響を及ぼす。家族が、これらの影響に適切に対応し、家族全体の生活や健康を維持できるよう支援していくことが重要である。この設問により、健康問題による影響に適切に対応し、家族全体の生活や健康を維持できるようにするための支援に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問1-1) 家族の状況について、概念または理論(家族コミュニケーション、家族役割など)を用いて説明していること。
- 問1-2) 1)をふまえて、家族内のコミュニケーションを促し、互いの思いや意見を共有できるようにする、各々の家族員が担っている役割を明確にし、必要な調整を行う、などの看護援助について、根拠とともに具体的に述べていること。

問2 子どもと離れて暮らす高齢者夫婦のどちらかが突然介護が必要な状態になった場合に、家族に生じる課題を2つとりあげ、それらに対する看護援助について具体的に述べてください。

(70点)

<出題の意図>

子どもと離れて暮らす高齢者夫婦のどちらかが突然介護が必要な状態になった場合、家族はさまざまな課題に直面する。この設問により、このような家族が直面する課題に関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

家族が直面する課題（介護を担うことになる高齢の家族員の負担、高齢者夫婦が介護と生活のバランスを取ることの難しさ、子どもとの情報共有や子どもの介護参画など）を2つとりあげ、それらに対する看護援助を具体的に述べていること。

専門科目 看護教育学

問1 クリティカル・シンキングについて説明した上で、看護の臨地実習においてクリティカル・シンキングの態度を育成するための方略について、あなたの考えを述べてください。

(100点)

<出題の意図>

看護の臨地実習では、最善の方法を決定し実践するためのクリティカル・シンキングの態度を育成することが重要である。この設問により看護の臨地実習においてクリティカル・シンキングの態度を育成するための方略に関する専門的知識、分析力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

クリティカル・シンキングについて、適切な基準や根拠に基づく論理的で偏りのない思考であること、などについて説明していること。看護の臨地実習においてクリティカル・シンキングの態度を育成するための方略として、看護過程を展開するために理論的知識を活用し、客観的思考を促すこと、論理的思考を促すこと、省察的思考を促すことなどについて述べていること。

問2 看護実践能力を向上させるための看護職の現任教育について、以下の問いに答えてください。

(100点)

- 1) 看護実践能力を向上させるための看護職の現任教育について、研修形態の種類、及びそれぞれのメリット、デメリットについて述べてください。
- 2) 上記1)をふまえて、効果的な研修計画を設計する際に考慮すべきことを説明してください。

<出題の意図>

看護実践能力を向上させるためには、施設内外で行う現任教育が重要である。この設問により看護実践能力を向上させるための効果的な研修計画の設計に関する専門的知識、分析力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問2—1) 看護実践能力を向上させるための現任教育の研修形態は、集合教育(Off-JT)と機会教育(OJT)とに分けられる。Off-JTは多様な知識やスキルを体系的・効率的に学習できるのに対して費用がかかること、OJTは実際の業務の中で具体的かつ直接的に学習できるのに対して体系的に学び難く指導者の力量に依存することなどを述べていること。
- 問2—2) 上記1)をふまえて、効果的な研修計画を設計する際に考慮すべきこととして、それぞれの研修形態のメリット・デメリットを補完する設計が必要であること、習得すべき知識・スキルを明確化し適する研修形態を採用すること、OJT担当者の教育と指導基準の明確化などにより指導内容を標準化することなどについて説明していること。

専門科目 看護管理学

問1 「看護サービス」について、以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

1) 「看護サービス」の特徴を3つあげ、説明してください。

2) 看護の諸活動を「看護サービス」と捉えることは、どのような意義がありますか。

1) をふまえて、あなたの考えを述べてください。

<出題の意図>

「看護サービス」は、患者を顧客として捉えた概念であり、看護管理の原点ともいえるその意義を理解することは重要である。この設問により、「看護サービス」に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

問1—1) 「看護サービス」の特徴として、無形性、生産と消費の同時性、変化しやすさ、顧客（患者）との共同生産などについて説明していること。

問1—2) 1) をふまえて、看護の諸活動を「看護サービス」と捉えることの意義として、患者が看護サービスの消費者即ち看護サービスを評価する「顧客」の視点を持つことや評価の難しい「看護サービス」の質評価および質向上の仕組み創りにつながることなどについて、自らの考えを述べていること。

問2 看護職が専門職としての役割機能をさらに発揮していくためには、どのような方路があると思いますか。専門職の特質を3つ説明した上で、あなたの考えを述べてください。

(100点)

<出題の意図>

看護職の専門職としての役割機能をさらに発揮していくための具体的な方路を考えることは重要である。この設問により、看護職の専門職としての役割機能に関する専門的知識、分析力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

専門職の特質として、高等教育機関で教育を受け独自の知識体系に基づいた高度で専門的な知識を有する、自律性を有する、専門性に独占的権限が伴う、独自の倫理綱領を備えている、などから3つ説明し、専門職としての役割機能をさらに発揮していくための方路について自らの考えを述べていること。